

V23b 県立ぐんま天文台の発足

古在 由秀、他天文台スタッフ (県立ぐんま天文台)

群馬県吾妻郡高山村の県立ぐんま天文台は、1999年4月29日に部分的な公開を開始し、7月20日には竣工式を迎え、本格的な運用を始める。

口径150 cmの光学赤外線望遠鏡は4月末の部分公開開始以来、見学者の観望などに利用されている。現在は引続き細部の調整を行い、1999年冬には研究目的にも使えるように準備をしている。2000年春までには赤外線観測装置や高分解能分光器なども整備される予定である。65 cm望遠鏡と6つの架台にのった観察用望遠鏡では、観望と撮像のための占有利用が開始され、現在はこれらの望遠鏡に用いる測光器やCCDカメラの準備も進められている。また、太陽望遠鏡からの直接像、 $H\alpha$ フィルターを通しての像、及びスペクトルは、4月から展示されている。

7月には、英国のストーンヘンジやインドのジャンタルマンタルを模した屋外施設も完成した。これらは、モニュメント的な性格も持ち合わせており、日中の見学者に公開されているものであるが、設営地の緯度・経度や地形も考慮して設計されたもので、実際の天体観測も可能なものである。

1999年7月時点のぐんま天文台の職員構成は、観測普及研究員10名、外国人研究員1名、指導主事(教員)2名、研究系の非常勤職員が3名(台長, 参与, 及び副台長)である。